

事業の基礎情報

事業実施地域	北海道
人材育成の対象	道内の自治体・交通事業者・交通関係団体・経済団体・観光団体など
人材育成の手法	北海道が目指すMaaSのあるべき姿（グランドデザイン／GD）の議論を通じた関係者の視座およびMaaS政策設計力の向上。道内外事例視察＋フィールドワーク（FW）＋課題議論を通じた課題解決力の向上。
人材育成の内容	道内での広域的なMaaSの実証・実装に向けた人材（人財）の育成
想定育成人数	100名程度

取組の概要

（現状の地域課題と事業目的）

北海道では一部の自治体や交通事業者を中心とした生活交通MaaSの取組は行われているが、観光と共創する取組は不足し、かつMaaSは道内において広域的取組には至っていない。R5年度事業を通じて、「交通事業者間、交通事業者と行政間の合意形成上の課題」や「利用者の目線で見たと際の課題」が明確になったので、R6年度の本事業においては、これらの課題解決に向けた北海道が目指すMaaSのあるべき姿の深堀と幅広い関係者に対する理解を底上げし、北海道において「交通と観光との共創による北海道MaaS」の構築を図る人材（人財）の育成を行うことを目的とする。

（事業の概要）

- ・GDを議論し立案することで、MaaSの政策設計ができる人材（人財）を育成する。
- ・道外先行事例を視察し、参加者がデータの利活用状況や現地の生の声を聴取するとともにFWを実施。道内におけるFWは交通が脆弱な地域で行う。それぞれのFW実施地では、地元関係者と協力して北海道MaaSの構築に向けた議論を行い、参加者の課題解決力の向上を図る。
- ・前年度事業の結果や道内外MaaSの決済・システム等を整理。また交通関連データや有識者意見等を還元し、GD議論に活用する。
- ・道内自治体・観光協会・交通事業者等と議論することで、交通と観光分野において共創すべき課題を掘り起こす。共有した課題は、GD議論や今後の事業展開に活用し、成果周知を通じて関係者の視座向上と知見育成を行う。
- ・総括セミナーでは北海道MaaSの実証・実装に向けた提言を行い、R7年度につなげる。

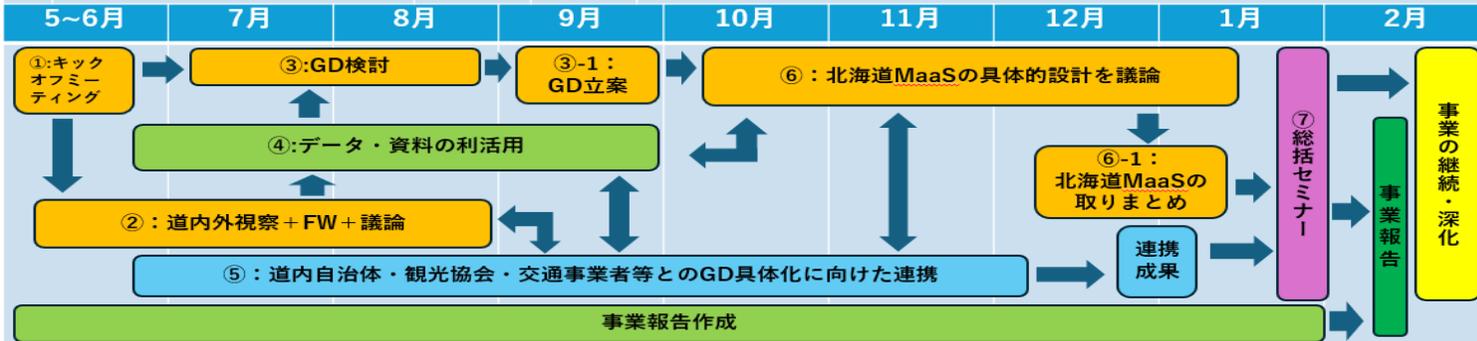
取組の詳細

(事業により見込まれる効果)

R5年度事業を通じて創出した「交通と観光との共創による北海道プラットフォーム」を活用した、北海道MaaSのGD議論・立案や、道内外視察 + FW・課題議論などを通じて、道内地域の交通・観光課題解決に向けた人材（人財）を育成し、今後の道内広域MaaSの実証・実装につなげる。またR5年度事業ならびに本事業で構築した他分野、他地域との人的ネットワークを活用することにより、北海道における持続可能な交通と観光の課題を解決する。

(事業実施手順・スケジュール)

No	項目	回数	対象者	概略内容
①	キックオフミーティング	1回	a:コンソーシアムメンバー	北海道が目指すMaaSのあるべき姿：グランドデザイン（GD）の検討にあたり、R5年事業成果や有識者からの意見を踏まえ、②の目的・意義を議論・整理及び②視察・フィールドワーク（FW）実施先の決定作業を通じた参加者のマインドセット。
②	道内外事例視察 + FW + ディスカッション	3回以上	a	②道外の交通・観光MaaS先行事例を視察し、参加者がデータの利活用や現地の生の声を聴取するとともにFWを実施し、結果をGD立案に役立てる。また道内の交通が脆弱な地域でFWを行い、③に役立てる。
③	GDの検討と立案	2回以上	a	②成果や④を踏まえて、北海道におけるMaaSの全体像や事業マッピング・ロードマッピングやその他実現に必要な事項を議論・検討し立案する。
④	データ・資料の利活用	2回以上	b:事務局	R5年事業の成果や道内外事業の決済・システム情報などを整理。また交通関連データの調査結果や有識者からの意見等を③⑤議論にフィードバックし、議論を側面的にサポートする。
⑤	道内自治体・観光協会・交通事業者等との連携	2回以上	b	道内自治体・観光協会・交通事業者等とのワークショップ（WS）・ディスカッションにより交通と観光の共創課題の掘り起こしを行い、④で得たデータを活用し③⑤議論に反映させる。
⑥	北海道MaaSの具体的設計の議論と取りまとめ	3回以上	a	③で立案されたGDを受け、北海道MaaSの具体的設計（基本設計、システム要件など）を議論し取りまとめ、⑦に落とし込む。
⑦	総括セミナー	1回	道内関係者	北海道におけるMaaSの実証・実装に向けた提言を行い、R7年度につなげる。



(補助事業実施後の予定)

- ・本事業終了後もプラットフォームメンバーや事業における連携先との協議を継続し事業の深化を図っていく。
- ・プラットフォーム間の連携により、本取組によるノウハウを活かした事業策定などが自走できるコミュニケーション環境を整備していくことで、道内でのMaaS取り組みを促進し、広域的な取り組みにつなげる。これらの取り組みを通じて「交通と観光との共創による北海道プラットフォーム」事業を軌道に乗せ、R7年度以降の実証・実装につなげる。